

先住民族問題研究会

「絶滅に瀕しているマルミミゾウ ～その生存の重要性」

講演：国際保全 NGO 「WCS」 西原 智昭 氏



マルミミゾウはアフリカ中央部の熱帯林地帯に生息するゾウで、絶滅が心配されています。

その最大の理由は象牙目的の大規模な密猟と森林開発です。マルミミゾウが消えてゆくことは森林再生という本来の地球規模の生態系メカニズムが崩れることを意味し、それは同じ生息環境に依拠してきた先住民ピグミーの生活をも大きく脅かしています。じつはその象牙利用に世界で一番関与してきたのは我々日本人であることを忘れてはなりません。一方、日本人の象牙利用に関する伝統文化を無視することもできません。こうした問題を歴史的・人類学的視点から皆さんと一緒に考えていける機会となれば幸いです。

演者プロフィール：京都大学理学部人類進化論研究室出身、理学博士。1989年から25年以上、コンゴ共和国やガボンなどアフリカ中央部熱帯林地域にて、野生生物の研究調査、国立公園管理、熱帯林・生物多様性保全に従事。国際保全 NGO である WCS (Wildlife Conservation Society) のコンゴ共和国支部・自然環境保全技術顧問を務める

日時：2018年4月7日(土) 14:00～16:00 (開場 13:30)

会場：聖心女子大学4号館 聖心グローバルプラザ BE*hive・ワークショップスペース
<http://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/>

東京メトロ日比谷線広尾駅4番出口 徒歩2分
参加費：無料 お申込み：不要

お問い合わせ (e-mail) :

会場: kyosei@u-sacred-heart.ac.jp

先住民族問題研究会 (尾本 恵市) :

kocolias@msg.biglobe.ne.jp

